JAC創立１００周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	首都圏２Ａつくも会	(2)記載者氏名	芦澤敏夫	会員番号:	13176	事務局整理記入欄			
分水嶺区分				(3)山行日:	2004年	5月	2日	(4)天候	晴のち霧

(5) 参加者氏名および会員番号

芦澤敏夫	13176		
		計	1名

サポート要員氏名および会員番号

		計	名

(6) 山行記録・位置確認 (出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

ｺｰｽ概略:	上ノ間山～忠次郎山～上ノ倉山～１８２０m点												
ｱﾌﾟﾛｰﾁ:	前日から続く												
地点ｺｰﾄﾞ	地点名	2.5万分の1地形図名	経度E			緯度N			高度m	到着時刻	出発時刻	道の状況	(8)～(11)の特記事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点									.				
分水嶺到達点	上ノ間山	野反湖	138	42	46.80	36	44	20.40	2,045.0		5:40		
1	忠次郎山	佐武流山	138	43	15.50	36	45	16.50	2,077.0	8:51	9:05	Ｂ－３	8，9
2	上ノ倉山	佐武流山	138	43	26.70	36	45	43.00	2,093.0	10:45	10:55	Ｂ－３	8，9
3	セバトの頭	佐武流山	138	44	21.00	36	45	39.70	1,890.0	12:38	12:39	Ｂ－３	9
分水嶺離別点	１８２０m点	佐武流山	138	44	41.70	36	45	31.90	1,820.0	16:30		Ｂ－３	9
歩行終了点													
											総歩行時間 (休憩時間を除く):		１０：０２

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点ｺｰﾄﾞを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
2	北川浦	3			残雪のため確認できず

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

１、２　の山頂は、残雪のため道標確認できず

(9) 水および植生に関連した特記事項

日本海側は、稜線沿いに木立が多いが、稜線を境に太平洋側は、背丈の低い笹薮が多い。
分水嶺を境に、日本海側は地形がなだらかであるが、太平洋側は切り立っている。雪庇が出来ているのも、太平洋側である。
稜線沿いは、藪または潅木が猛烈に茂っている。水場は、ない。

(10) その他の特記事項

登山地図には「この間猛烈なヤブ、大学ワンゲル部などのヤブこぎ合宿の世界」となっており、今回は残雪があったためにどうにか縦走できたが、雪の無い時期は、水の確保・藪の深さ・複雑な尾根等から、相当の困難なルートである。

(11) 写真の添付: (有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: